

### 【自然環境】

硫黄島は、薩南諸島北部に位置する島である。薩摩硫黄島とも呼ばれる。黒島、硫黄島、竹島と3つの島の真ん中に位置する。白煙噴く活火山である硫黄岳のある硫黄島は、火山のエネルギーに満ちている。硫黄島は、喜界カルデラの中央火口丘にあたり、絶え間なく湧き出る様々な温泉や硫黄により、七色に染まった海岸線が神秘的である。

周囲 14.5 km、面積 11.7 km<sup>2</sup>、椿、つつじ、車輪梅の原生林や、野生の孔雀が散歩する、のどかな風景がみられる島である。



### 【社会的背景】

人口は 120 人前後で、65 歳以上の人口が 15 歳未満の人口の 2 倍以上いるが、実際に硫黄島を訪れた際は、それほど高齢化が進んでいる印象は受けなかった。むしろ、子供は多くとても元気で、また若い人も多く、高齢の方も元気で、活気にあふれた印象を受けた。

産業は、漁業と畜産がさかん。

また、硫黄島は、「俊寛流刑の地、喜界ヶ島」として有名である。俊寛の人生は悲運そのものである。今回の診療の拠点であった、三島開発総合センターの前に立つ俊寛の像からも俊寛の悲しみが伝わってくるようであった。

### 【住民の生活】

島には店という店がなく、日々の生活はどうしているのだろうと思い、島の人に尋ねた。食べ物や生活必需品は島の何人かと一緒に生協に注文したり、鹿児島本土にいる親戚に頼んだりして、船で受け取っているとのことであった。また、習慣かどうかは分からないが、ジャンベという太鼓に似た楽器や、ジャンベに合わせて踊るダンスがさかんである。ダンスは滞在2日目に教えていただき、楽しい時間を過ごさせてもらった。私たちが島に着いたときは歓迎のジャンベで迎えられ、島を離れるときはジャンベと教わったダンスで見送ってもらい、感激した。

### 【医療供給体制】

今回の診療の拠点となった三島開発総合センターに診療所があった。そこには看護師さんが一人、常にいる状態であった。歯科医師はいなかった。

硫黄島は鹿児島市内まで船で片道4時間の場所に位置しており、口の中になにか異変があった時は鹿児島に行けばいいと考える人が多く、歯科の観点では、医療過疎とは言えなかった。

## 【実習概要】

日付	内容
10月 6日	硫黄島到着 義歯修理 2件 定期健診 数件
7日	コンポジットレジン充填 数件 歯石除去 1件 定期健診 数件
8日	コンポジットレジン充填 数件 フィッシャーシーラント 1件 定期健診 数件
9日	硫黄島出発



## 【振り返り記録】

硫黄島では多くのことを学ばせてもらった。

大学病院という、器具も薬もすべてがそろった環境だったら、患者にとって最高の医療を提供できるのに、島ではそういうわけにはいかない。限られた環境の中で、どれだけのことを患者のためにしてやれるのだろうと考えさせられることが多かった。限りある状況の中、自分の知識を振り絞って、どうすれば患者にとって一番いいのかと考えさせられた。歯科医師となる未来が近づいている今、ひとりでも多くの患者のために、将来、役に立てるように、臨床実習に臨んではいるが、なかなか上手くいかないことばかりで、滅入ることが多い。今回、島で学んだ、患者にとって最高の医療を提供するためには、豊富な知識と、知っているだけでなく実際にすることができるという技術と、患者を思いやる気持ちが必要不可欠である、ということを中心に刻んで、日々精進していきたい。

硫黄島での3泊4日はとても充実していた。朝は早起きして散歩したり、昼は時間があれば観光をしたり、夜はジャンベ体験や、先生方や研修医の先生たちとの交流など、楽しいことばかりだった。島の人々は優しく、子供たちは元気で可愛く、とても癒された。3泊4日もいると、たくさんの人たちと顔見知りになることができた。民宿のご飯もとても美味しかった。島の景色も星も綺麗で、なにもかもが楽しく思えた。最終日は島を離れるのが寂しくなるほど硫黄島の魅力は素晴らしかった。私が晴れて歯科医師になれば、もう一度硫黄島を訪れ、今度こそは硫黄島の医療に貢献したいと思った。

素敵な思い出や、素敵な人たちとの出会いに満ち溢れた、今回の行程に参加でき、本当に良かった。

